

# CASBEE®名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 名古屋中規模建物環境総合性能評価マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)桜山プロジェクト新築工事	階数	地上14階
建設地	名古屋市瑞穂区桜見町1丁目5番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	387 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2020年12月14日
敷地面積	1,799 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,255 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月14日
延床面積	6,657 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE1.1** ★★★★★☆☆☆☆

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 94%  
③上記+②以外の 94%  
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 1  
LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 商業地域だが住宅も多い地域内に立地し、1Kと2LDKの住戸構成の賃貸向け共同住宅と物販店舗を1階に設置している建物。 ニングし区画して、消防設備の軽減を図っている。 1階と2階の間には免震ビットを設けた中間層免震構造を採用し、地震への対応と居住性を確保している。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> 音、熱、光、空気環境に関して、いずれも標準的な仕様としている。	<b>Q2 サービス性能</b> パリッパリ対応とし各住戸に採光窓を十分に確保している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 適宜緑化を行い、周辺環境に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> エネルギーに関しては標準的な仕様としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマを採用する等、標準的な取り組みをしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐車場・駐輪場の設置等、標準的な取り組みをしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)桜山プロジェクト新築工事

■使用評価マニュアル:



CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2	
2. 自然共生	評価点 = 1.9	
3. 循環型社会	評価点 = 3.1	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。